

PTA会報

No.55 2011.11



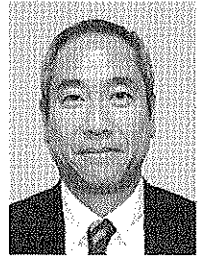
2011.11.10 S. Takada

松江東高

目次

○ P T A 会長挨拶	1
○ 校長挨拶	2
○ 特集① 「部活動と高校生活」	4
○ 特集② 「東日本大震災に関するアンケート」	10
○ 部活結果一覧	14
○ 新任教職員自己紹介	20
○ P T A 会務報告	22
○ 編集後記	24





家庭の役割・学校の役割

・PTAの役割

PTA会長 一 村 眞

日頃から、校長先生をはじめとする職員の方皆さん、また、PTA活動を推進し支えていただいております。役員、会員の皆様に心からお礼申し上げます。

学校行事の主要な催しのひとつであります東雲祭も、不安定な天候の中での実施でしたが、大変充実した内容となりました。特に仮装大会では企画段階から様々な問題に突き当たったように伺っておりますが、大変良い経験がされたのではないのでしょうか。最後まであきらめず実行に移された生徒及び関係の皆さんに心から敬意を表します。

さて、先般全国高等学校PTA連合会大会北海道大会に参加いたしました。そこで特に印象に残った事例報告についてご紹介します。参加した分科会のテーマは「生徒指導とPTAと人と人との関わりの中で」です。お隣の鳥取県立倉吉総合産業高等学校が「生活指導から生活向上へ」生徒会・学校・PTAで築く学校ブランド」と題しての報告でした。

「良き生活習慣なくして学力の向上はあり得ない」という考えの下、PTA生活指導部で三つの目標「①気持ちの良いあいさつ、②身だしなみの徹底、③教室等の環境整備」と三つのゼロ「遅刻ゼロ、盗難ゼロ、問題行動ゼロ」の基本方針を柱として取り組む。一方的な指導でなく生徒会も主体的に取り組む大きな成果を上げている。特にあいさつ身だしなみは地域でも高い評価を得ている。

実践としては、PTAの役割として、学校の指導方針や目標を理解し、PTA活動の最小単位である家庭でできること、とりわけ家庭でしかできないことを実践すること。例えば、朝、気持ちよく目覚め、朝食をとり、お弁当を持ち、明るく、「いつてらっしゃい」と送り出された子供達はその後の地域、学校でさわやかなあいさつ行動に繋がって授業にも集中できる。遅刻や問題行動もほとんどなくなった。

生活指導部では、子供達のこの気持ちの良いあいさつを体感しエールを送る意味で「爽やかあいさつ運動」を実施している。地域の方々から「総産の生徒はすごいねエー」と評判になり、そのあいさつを見に来る保護者が増えた。おのずと保護者と学校、生徒との関わりが増え関心が高まる事により問題点や考え方が共有でき、子供達の生活向上に關することを広く捉え問題提起や情報提供に繋がった。ちなみに、就職内定率も毎年100%を達成。(第一希望が八割第二希望が二割：三年間の離職率は20%未満)

PTA活動の原点を、できることから実行に移し、一つひとつの積み上げが大きな実績となつて現れていることに感動いたしました。こういった取り組みは私達の身近な所でも実践されていきます。

松江市内の各地域では、小学生の登下校時に見守り活動を実施しております。私の住んでいる地

域でも、老人クラブの皆さんが見守り隊を組織し毎朝夕小学生の登下校の見守りを行っております。私の出勤する時間はちょうどその時間帯と重なるため小学生や老人クラブの皆さんにあいさつをします。ほぼ毎日お会いするためあいさつ以外にも言葉を交わすようになります。おかげで毎朝すがすがしい気持ちで出勤する事ができます。また、日常的に町内で出会う人達にあいさつをするようになりました。

生徒の皆さんは近い将来社会に出ます。社会に出ると様々な組織或いは団体に所属します。一見すると社会は結構自由な雰囲気に見えますが、法律や社会規範、組織でのルール、慣習等制約があります。例えば職場でのあいさつや身だしなみ。研修や朝礼等であいさつ等の接遇や頭髪、服装、履物などの身だしなみについて指導があります。企業や団体はただ単に商品を買ったりサービスを提供するだけではありません。営業活動や顧客からの問い合わせ・苦情に社員(人)を介して対応します。このとき身だしなみが悪いとその会社の信頼が崩れます。人を見た目だけで判断してはいけません。ほとんどの人は目から入る視覚情報を元かなりの割合で判断しているといわれています。一方では身だしなみを整えると気持ちも引き締まる感じがしそのまま態度となつて現れます。

このあいさつや身だしなみはどこで鍛えられるか。原点は各家庭でありその延長線上に学校や会社等の組織があります。日頃からの少しずつの積み重ねが結果となつて現れます。学校での日頃の勉強や部活動と同じですね。

良いと思つたことをできることからやってみる。まずは行動に移すこと。続けてみる。家庭で実行し地域や学校でも試してみる。さあ始めてみましょう。



いのちなりけり

校長 中村 清志

最近、こんなお便りや電話をいただきました。どなたか特定できないように、しかし、オリジナルティは損なわないように、少し改変して載せません。

先日の体育祭、お世話になりました。天候が心配されましたが、屋外で実施された本日に良かったと思います。

他校では、同じ日、デコとダンスだけを体育館で行ったと聞きました。

屋外でやることを決めるのは勇気がいったと思います。おかげで生徒たちは充実した一日を過ごすことができたと思います。

息子は、学校生活に対して、比較的しらけた感じがあったのですが、今年の体育祭はデコ

もダンスも気持ちに乗っていたようです。

最後の体育祭に良い思い出ができたのも、先生方がおそらく悪天を押し、グラウンドで行ってくださったからだ感謝しております。

こんなメールが自分の親から校長に渡っていることなど、「息子」は知らないでいることでしょう。

こんなお手紙もいただきました。

なかなか、我が子が手紙を出さないおかげで

「よぶこえ」を拝見できずに困っています。

ところが、階段に投げっぱなしにしてあるカバンから、黄色い紙が、その日に限って何か目に入り、取り出してみました。私にとっては久々の「よぶこえ」でした。その中の校長先生の文章に「怒りや悲しみを私にも直接ぶつけてくださいませんか？」というお言葉に何だか無性にお手紙を書かせていただきました。衝動にかられてしまいました。最初に言っておきたいのですが、怒りや苦しみでもなく、訴えでもない、どちらかといえば、最近一番の喜び(?)を校長先生にお話したくなりペンを執らせていただきました。「一番の喜び」の中身は具体的には書けません。こういう文章でこのお便りは締めくくられています。

親が出て行くようなことにならずに、子供たちだけで、一歩前進できたことが本当にうれしい出来事でした。

こうやって成長させてもらえるんだらうな。大人になったときに絶対いい思い出になるに違いない。

いいなく、青春って…。と思うと涙が出てき

ました。

この「青春」している子も、そんな親の気持ちを知らないでいると思います。

こんな電話をいただいたこともあります。

子どもがどんなに苦しみ悩んでいても、どうしてやることもできません。

心を固くして、子どもの部屋の物音に耳を澄ましている毎日です。

物音がしたらしたで、ことりもしなければしないで、心配でならない日々です。

こうした親の「怯(おび)え」も、子どもはおそらく知らないと思います。

そうして親とは別の世界で、一人ぼっちの苦しみを苦しんでいるにちがいありません。

親というものは悲しいものです。

吉田松陰が処刑される時に詠んだ辞世(じせい)の歌が残っています。

親思ふ心にまさる親心

今日のおとずれ何と聞くらん

和泉式部の娘は小式部内侍(こしきぶのないし)と言いますが、彼女は二十五歳で、出産のときに亡くなったと言われています。

母親である和泉式部は、その悲しみをこんな歌に託しました。

とどめおきて誰をあはれと思ふらむ

子はまさるらむ子はまさりけり

(後拾遺和歌集)

おまえは、生まれたばかりの娘と母である私を残して逝ってしまった。

一体どちらをいとしいと思つているのだろう。きつと親である私よりも、自分の娘のことが気がかりにちがいない。

だつて、私だつて、自分の親よりも、娘であるお前のことがいとおいしいもの。

親は、いつの世も、子どもの知らないところで、子どものことに心を痛めて生きています。親とはそうした悲しく切ないものなのです。

東大が、入学式を欧米に併せて秋にするようなことを言っています。

しかし、日本も昔は夏に卒業して、秋に入学していました。

夏目漱石の『こころ』に、「私」が卒業証書を父親に見せる場面があります。

「ああ帰つたかい。そうか、それでも卒業ができてまあ結構だつた。一寸(ちよつと)お待ち、今顔を洗つて来るから」

父は庭へ出て何かしていたところであつた。

古い麦藁帽子(むぎわらぼうし)の後ろへ、日除けのために括(くく)り付けた薄汚いハンカチをひらひらさせながら、井戸のある裏

手の方へ廻つて行つた。

父親が、あんまり「結構だ」と言うので、「私は、こんな憎まれ口をたたきます。

大学ぐらい卒業したつて、それほど結構でもありません。

卒業するものは毎年何百人だつてあります。父親がこんなふうにあります。

親の悲しみが切々と伝わります。子どもが子どもである間は、おそらく、どうてい

伝わらない悲しみです。つまり、おれが結構ということになるのさ。

おれはお前の知つている通りの病氣だろう。去年の冬、お前に会つた時、ことによると三

月(みつき)か四月(よつき)くらいなものだろうと思つていたのさ。

それがどういう仕合(しあわ)せか、今日までこうしている。立ち居に不自由なくこうしている。

そこへお前が卒業してくれた。だから嬉しいのさ。せつかく丹精した息子が、自分の居な

くなつた後で卒業してくれるよりも、丈夫なうちに学校を出てくれる方が親の身になれば

嬉しいだろうじゃないか。

大きな考えを有(も)つているお前から見たら、たかが大学を卒業したくらいで、結構だ結構だと云われるのは余り面白くもないだろう。

然(しか)し、おれの方から見てご覧、立場が少し違つているよ。

つまり、卒業はお前に取つてより、このおれに取つて結構なんだ。解つたかい。

(夏目漱石『こころ』新潮文庫)

西行、六十九歳の歌。

年たけてまた超ゆべしと思ひきや

命なりけり小夜(さよ)の中山

(『山家集』岩波文庫)

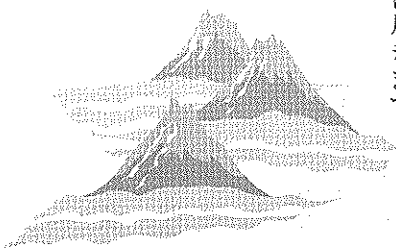
年をとつてから、もう一度、超えることができると思つただろうか、いや思いはしなかつた。

命があつてのことだなあ。小夜の中山を超えながらしみじみとして思うことだなあ。

親の思いは、西行の言葉を借りるならば、限りなく「命なりけり」です。

自分自身についても、我が子に関しても、限りなく「命なりけり」です。

「命あつてのことだなあ」に尽きます。



特集

①

部活動と高校生生活

〜三年生 部活動をふり返って〜

ありがとう

女子バレーボール部 吉岡真依

高校生活の中で部活動は、私が一番自分らしくいることのできる場所であり、その時間の中で、自分を成長させてくれました。

キャプテンとしてチームのために何もできない自分が嫌で、何度も投げ出したいと思いました。でもいつも近くには、笑顔で盛り上げてくれる仲間や信頼できる先生、家族がいてくれました。一人じゃなかったから最後までやりぬくことができましたと思います。

こんな私を支えてくれたひとへ感謝の気持ちでいっぱいです。最後まで目標としていた結果が出せず、悔しい思いもありますが、勝敗より大切なことをたくさん学ぶことができました。

私にとって部活動がどれほど大きな存在であったか、引退して初めて気づくことができました。東高バレー部 ありがとう

男子バスケットボール部 金村 謙

目標に向かって

目標はいつもインターハイで勝つことでした。朝、体育館でシューティング。放課後はチーム練習。バスケットで始まりバスケットで終わる。バスケットの生活でした。

三年の夏のインターハイ。目標を達成できずとても悔しかったです。応援してくださった方々や支えてくださった方々の期待に応えられなくて、とても残念でした。ですが、このチーム、このメンバーでインターハイに出れたこと、試合が終わる一秒まで諦めずに戦えたことは、とても満足しています。

三年間の部活で学んだことや得たものはたくさんあります。どれもかけがえのないものです。三年間で学んだことを胸に、新しい目標に向かって頑張りたいと思います。

大切な仲間

女子バスケットボール部 加茂 日砂美

女子バスケットボール部に入って十三人の仲間に出会いました。誰一人欠けることなく、辛い時も、うれしい時もずっと一緒にやってきました。部活動も終え、今はそれぞれの夢に向かって頑張っています。毎日見るみんなの笑顔のおかげで今日も頑張ろう！と思えることができます。卒業したらみんな離れ離れになってしまうが、高校生活の一番濃い時間を共にしたとっても大切な仲間たちを、私は一生忘れません。

女子バスケットボール部が大好きです。

部活での経験

男子テニス部 高梨 友博

部活動を通していろいろな経験ができました。

その中でも、キャプテンになったことはとてもいい経験だったと思います。僕はあまりリーダーシップをとるような性格じゃないので正直、最初は不安でいっぱいでした。でも、部員のみんなや顧問の児玉先生のおかげで頑張っていました。いいキャプテンになつてないと思いますが、みんなと一緒に頑張れて本当に良かったです。今後はこの経験を活かしていきたいと思います。ありがとう

ございました。

部活動を通して

女子テニス部 佐々木 成美

私は、部活動を通してたくさんのことを学びました。その中でも一番大切だと思つたことは、周りの方々への感謝の気持ちです。キャプテンになつて大変なこともあつたけど、いつも支えてくれる部員や相談にのつてくださった先生、そして陰ながらいつも見守つてくれている家族。たくさんの方の支えがあつたからこそ、最後までキャプテンとして続けてこられたんだと思います。これからこの貴重な経験を生かして、感謝の気持ちを大切にしていきたいです。

仲間の支え

女子ソフトテニス部 池田 歩美

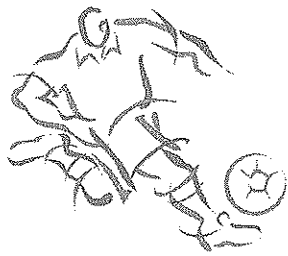
私は部活動を通して多くの人に支えてもらいました。苦しい時や落ち込んでいる時は、部活の仲間の明るさや笑顔にとっても支えられました。支え合い、団結し合える仲間は私にとつてとても大きな存在となりました。また、顧問の先生や外部コ

チの方には優しく、時には厳しく指導してもらいました。そんな多くの人たちに支えられ、関わり合えた部活は高校生活で一番の思い出です。ソフトテニス部に入つて良かったです。ありがとうございます。

部活を通して

サッカー部 河野 竜三

松江東高校でサッカー部として活動して多くのことを学びました。中でもチームをまとめることの難しさを学びました。自分は人に怒ることが苦手で、そういったことから逃げてばかりだったので、練習に締まりがない日があつたり、実力の出せない試合があつたのだと思います。そういうときに、厳しい言葉をかけることができる人がいると、チームがまとまるといふことを知りました。これからまた同じような立場になることがあると思うので、そこで、部活動での経験を活かしていきたいと思ひます。



部活動を通して

女子バドミントン部 西村 春美

私の三年間の部活動は、とても濃いものでした。最初は、自分が部長でいいのかと不安に思う時期もありました。でも部員や親に支えられて部長という役目を全うすることができました。そして、私たちの代では中国大会という大きな大会に参加できたのでとても貴重な経験をしました。私が三年間楽しく部活を続けられたのは、部員みんなや顧問の先生方のおかげだと思つています。本当にありがとうございます！

部活動を通して

アーチェリー部 吉野 誉之

同学年の部員が男女合わせて三人で、人数としても先輩としても、後輩から頼りなく見えたと思ひます。

前任から選ばれてキャプテンになりましたが、振り返ってみれば大会の成績は大したものを残せず、普段の練習の中でも、キャプテンとしての仕事を果たすことができたとも思いませんでした。でも、今度の新しいキャプテンは俺の失敗を近くで見ているので、同じ轍を踏むことなく、より

良く、より強い部にしてくれるだろうと思います。
入部した時から熱心に指導してくださった顧問の先生方の期待を裏切る形になってしまいました。すみませんでした。

それでも最後まで従ってくれた部員と先生方、ありがとうございます。

ハンドインハンド

男子ハンドボール部 宮下 悠

入部したての頃、やる気満々でチャレンジしていた僕達。代が替わり、練習があつたり、無かつたり、先輩不在の時期が引きがねとなり活動を中断してしまつた。ブランク持ちのメンバーで、総体までの一年足らずの間に、どう立て直し強くなっていくのか、課題は山積み……。焦りはあつたが全員で一から話し合い、スキルや作戦を考え、実践し徐々にまとまり、「めざせインターハイ」を言葉に一粒となつた。結果こそ出せなかつたが皆が日々成長し、良い意味で変わつていつた事に大いなる意義があつたと思いたい。



想いをつなぐ風になれ

女子ハンドボール部 佐藤 咲季

ハンドボールは、私に多くのことを学ばせ、私を成長させてくれました。その中で私が得た一番大切なものは仲間です。特に三年生は一年生の時から誰も欠けることなくやつてくれました。もちろん、キャプテンとしてみんなをまとめきれなかつたり、最後の大会を目前にして人が出たり困難なこともありました。でも、最後は三年生みんなが試合に出られて、想いを一つに納得できるプレーができました。これからの生活では、部活での経験を活かしていきたいと思えます。

卓球部について

卓球部 田村 優

僕が部長になつたのは二年生の冬で、翌年度の春には新入生が十数人入部してきてくれました。ただでさえ狭い練習場がさらに狭くなり、ただでさえ騒がしい部員たちがさらに騒がしくなりました。

この元気がよく個性的な部員たちをまとめるのは大変だと思えますが、後任にはがんばってほしいです。頼りないキャプテンでしたが、今までついてきてくれてありがとうございます。

一年間キャプテンをして

陸上部 山崎 慶祐

一年間陸上部のキャプテンをして人を動かすことの難しさを知りました。東高陸上部は指導者がいないので、練習で怒られたりすることはほとんどありません。そんな中、僕が練習メニューを全員が納得してできるように組んで、それをしようとして直したり、他の部員から要望がきたら聞いたり、とても大変でした。

でも、僕以外の部員の人も大変だつたと思えます。「このメニューって意味あるの?」と思つた人もいると思えます。要望もほとんど実現できませんでした。僕が部の雰囲気が悪くしたことも少なからずありました。

それでも一年間僕についてきてくれた仲間達がいいて、一緒に部活ができてとても幸せでした。

Thank you!!!

三年間を通して

ボート部 重原 浩樹

僕が部活を通して学んだことは、「継続することの大切さ」です。単純な作業を繰り返すこの競技は自分の成長を感じにくく、練習がつらく部活

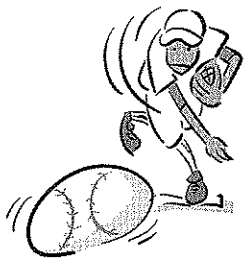
を辞めようとしている人もいました。しかし、そこで投げ出さず、最後まで頑張ったのでみんな悔いの残らない結果が出せました。誰一人欠けることなく皆で引退できたことは本当に幸せなことだと思います。この三年間の経験を生かしてこれからの人生を歩んでいきたいです。

感謝

野球部 野津 堯伸

僕の高校生活の中心は野球でした。入学してから二年半僕は人として本当に成長できたと思います。部活を通して得たものは根性、技術、礼儀などたくさんありますが、一番にあるのは、感謝する気持ちです。ただ一つの目標に互いに高めあえる仲間の存在、指導者の方々、保護者の方々、他にも知らないところで支えてくださった人々がおられたおかげで一生の思い出になる二年半が過ごせたことに、とても感謝します。

これからも誰かに支えてもらっていることを忘れぬよう生活していきたいです。



『感謝』

剣道部 稲澤 健

私たち剣道部は惜しくもインターハイ出場を手にすることができませんでした。けれど、剣道部で過ごした日々、松浦先生は優しく、厳しく、一生懸命に指導してくださいました。緒方先生は差し入れなどして陰から支えていただきました。後輩たちは三年生の倍以上いてとてもにぎやかで雰囲気を楽しく盛り上げてくれました。保護者の方々には応援を一生懸命してくださいました。校長先生、外部指導の先生方にも本当に感謝したいです。女子は、中国大会の県予選で、東高創立以来(29年間)、男女とおして初の県大会優勝の偉業を成し遂げました。

剣道部はいろんな人の支えがあったからこそここまでこれたと思います。これからも常に『感謝』を忘れずに今を一生懸命に頑張りたいです。

自分の高校弓道

弓道部 中村 絢

最後の大会、自分の最後の一射を放った時は、これで自分の高校弓道が終わったのだという感じはしなかった。待合室に戻り少し落ち着くと、これで本当に終わったのだと感じた。自分は部長と

しての仕事をきちんとできていたのかな、などと振り返っていると自然と涙が滲んできた。弓道を通して多くのことを感じ、多くの思い出ができた。また、一・二年生のかわいい後輩たちと過ごせた日々はとても良いものだった。自分は本当に幸せ者だった。

最高の水泳生活

水泳部 横川 淳

高校生活は、すべて水泳に費やしてきたといっても過言ではないと思います。そういった水泳生活を振り返ってきた中で、インターハイ出場という目標を達成し、全国のトップレベルの選手たちと泳ぎ、競い合うことで、自分自身を見つめる良い切っ掛けとなり、そして全国の力を肌で感じられたことは、一生忘れることのない経験となりました。

こういった水泳生活を送れ、今の自分があるのも、両親や仲間といった周りのたくさんの方々の支えのおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

これからも水泳を一生続けていきたいと思えます。

「ステージに立ち続けた三年間」

合唱部 岡 揚 仁

純粹に音楽性だけを追求していくのなら、こんなに楽しい活動はありません。しかし合唱という美しいハーモニーを生み出すため、どれだけ部内の人間関係作りに労力を費やしたことでしょうか。「心を一つにする」ことの困難さに苦しんだ時期もありました。

葛藤を抱えながらも心の奥深い所にいつも音楽があつた私の高校生活は、ミュージカルで演じたそのままに、喜びや哀しみが渦巻く彩り豊かなステージとなりました。

そして途中でステージを降りた仲間のことを思いながら、最後まで歌い続けた三年間でした。

弦楽部で得たもの

弦楽部 安 達 夏 織

弦楽部に入学してから私はたくさんものを得ました。高校で初めて触れた弦楽器を今では演奏できるようになつたこと、共に部活に励んだ仲間たちとの思い出は宝物です。私たちの学年は今までの先輩方より人数が少なく不安もありましたが、その分一人一人の声を直に聞いて意見を交わし合い、より強い団結力が生まれました。弦楽部で引

退まで楽器を弾き続けられたことはこの先の支えになると思います。弦楽部に入つてよかったです。

感じること

美術部 田 部 温 子

絵を描く前にモチーフから形や色、角度などおもしろいと感ずるところを見つけてみます。

しかし気持ちだけで作品を完成させることはできません。全体の形をとらえなければまとまりがなくなります。立方体、球、三角錐などおまかな形を捉えていくとまとまっていきます。また、堅い・柔らかい、ザラザラ・ツルツルなど表面の質感も、覗いたり触ったりして感じたことを描き分けます。

作品が完成するまでには「感じること」の連続で、そのたびに新たな問題が見つかり、挫折感も漂います。それでも気持ちを直し、根気強く、深く突き詰めていかなければ満足できる作品は完成しません。

作品創りで大切なことは、覗いて、感じることと、あきらめず妥協しないことだと思えます。これから先、ずっと美術と向き合つて生きていくわけですが、「感じること」を大切にしていこうと思えます。

文化創造部になつて

文化創造部 丹 羽 のぞ 美

放送・演劇・写真・文芸の四つが統合し、文化創造部が誕生しました。最初は不安もありましたが、部門を超えて協力し、試行錯誤しながら活動の幅を広げていきました。方法は異なりますが、どの部門も伝えるために制作するという根底は一致していました。

文化創造部の活動を通して、新しいことに取り組みやすさ、創造する難しさ、伝える奥深さを学ぶことができました。充実した時間を過ごすことができ、本当によかったです。

部活動を通して

ESS部 古 田 り さ

私は二年半ESS部に所属し、三人のALTの先生方と活動してきました。英語が得意なわけではないので初めは緊張してあいづちを打つただけで精一杯でしたが、だんだんと会話が出来るようになりまし。そしてESS部では外国の文化に触れる楽しさや自分の考えをきちんと相手に伝えることの大切さを学び、日本文化について再発見することも多くありました。少しの間でしたが、ESS部で活動が出来てとても楽しかったです！

やり遂げる

書道部 永田 葵

私は書道の経験が全くないのに入部しましたが、筆の使い方から丁寧に先生に教えていただき、少しずつ美しい字が書けるようになりました。高校生活最後の今年、東雲祭で東高では初の書道パフォーマンスをすることができました。初めてのことはかなりで大変なこともたくさんありましたが、部員全員力を合わせて作品を仕上げた達成感は忘れられない思い出になりました。協力してくださった皆さまに感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

三年間の部活動の中で

自然科学部 周藤 和寛

部活を通して三年間、一年生のころから部長を務めてから、この部活をどのようにして盛り上げるかを考えてきました。本部活はできた当初から部員数が少ないため自分の高校生活の途中で廃部になる可能性がありました。部活存続のために文化祭での実験・研究発表や他校との自然科学部の発表会で最大限の努力をして、そして無事に自然科学部員として引退することができました。自然科学部に入ってから決して楽しいことばかり

ではありませんでしたが、島根の美しい環境の中で部活動ができたことが一番の思い出です。心残りはまだ多くありますが、たくさんのおに出会え、学べた自然科学部に入部して本当によかったです。部活動の顧問の先生方、自然科学部の部員たち、田中正樹先生、今までありがとうございました。

部活に入って

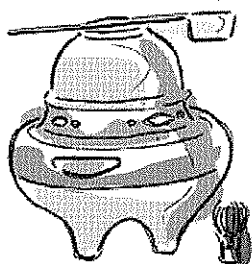
JRC部 内田 里歩

私はJRC部に入ってから皆さんの経験をしました。印象に残っている体験は、一年生の時初めて駅前で街頭募金に参加したことです。緊張していましたが多くの人が募金をして下さってとても嬉しかったことを今でも覚えています。この部活に入ってから多くの人と出会い、皆さんの感謝の言葉をいただきました。将来の進路について悩んでいましたが部活を通して人の役に立つことをしたいと思い、進路を決めることができました。JRC部に入ってから良かったです。

茶道同好会と私

茶道同好会 景山 知華

東高茶道同好会が発足してから早四年、初めは二人だけだった部員も人数が増え、今では東雲祭でにぎやかに御点前を披露するまでになりました。厳粛な雰囲気の中での活動や、美味しい和菓子や頂きながらの談笑など、茶道同好会で部長として活動したことは私の心の中にずっと残るものになりました。未経験者の私が部長として一年間務めることが出来たのも、先生や先輩、後輩、親など沢山の人が支えられたからです。本当に楽しく、充実した三年間でした。ありがとうございました。



東日本大震災に関するアンケート

特集

2

実施日：平成23年8月24日

アンケート対象：松江東高全校生徒 732人

回答数：425人

回答率：58%

今年3月11日に発生した東日本大震災では多くの人命が失われ、生き残った被災者の皆さんも不自由な生活の中、復旧、復興に向けて懸命の努力を続けておられます。

今回の災害では被害のなかった島根県も、過去においては多くの災害によって被害を被っており、いつ私たちの身近で災害が起きても不思議ではありません。

そこで、今年度第1号の機関紙「嵩山」では、身近な防災に関する皆さんの今の状況をお尋ねするとともに、震災後、皆さんの意識や家族との関わりなどに何か変化があったか、あればその内容についてぜひお聞かせいただきたく思い、アンケートを実施することにしました。

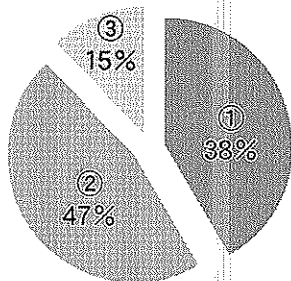
アンケートの集計結果は以下のとおりです。

まず、A. 身近な防災に関しては、今回の震災で防災に対する意識は高まっているものの、災害時の備えなど具体的なアクションを起こすまでには至っていないというのが現状のようです。また、B. 震災後の意識の変化については、震災の被害の大きさは十分に理解できても、日々の生活ではなかなか実感することが難しく、震災後5か月を経たのアンケート実施であったため、意識の薄れもあるように思われました。一方で、記述部分の内容をみると、それぞれの真剣な思いが述べられており、また、アンケートの中で「震災後家族の絆について意識するようになった」という回答が多くあったことも嬉しく思いました。

災害においては、まず自分の身を守ることが大切です。各家庭の備えについても、今回のアンケートで改めて考えてもらうきっかけにいただければと思います。

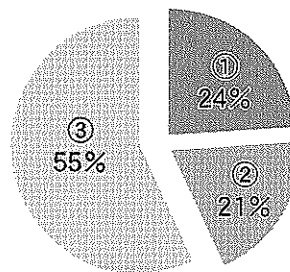
〈A. 身近な防災に関して〉

2. 気象情報や地震情報などに注意を向けていますか？



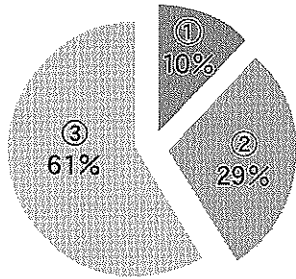
- ① 今回の大地震の前からテレビやラジオなどの情報に注意していた。
- ② 今回の大地震をきっかけに情報に注意するようになった。
- ③ 特に注意はしていない。

1. これまでに身近で何らかの災害に遭遇、または実際に被災したことはありますか？



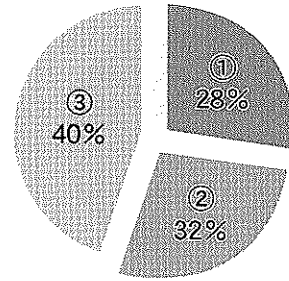
- ① 親以前の代では経験があるが、本人には経験がない。
- ② 本人も経験がある。
- ③ 誰も経験したことがない。

4. 避難する時に持ち出すものを家庭で決めていますか？



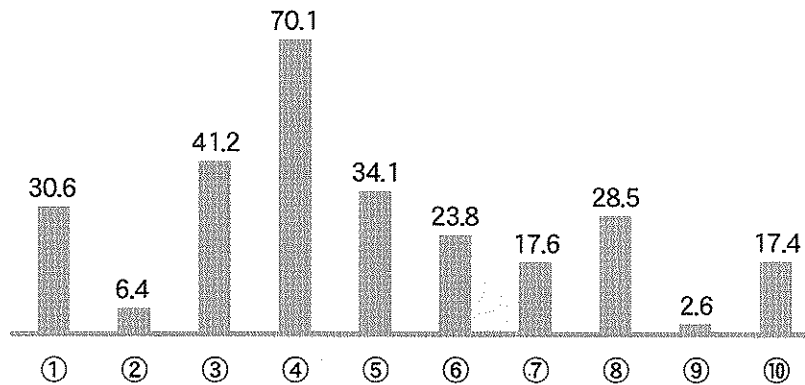
- ① 持ち出すものは決めてあり、いつでも持ち出せるようにしている。
- ② 持ち出すものは決めているが、すぐ持ち出せる状態ではない。
- ③ 特に決めていない。

3. 災害発生またはその恐れがある時に、どこへ避難するか決めていますか？



- ① 家族全員で避難先を決めている。
- ② 避難が必要になったら、その時に決める。
- ③ 特に決めていない。

5. 災害時の生活に向けて家庭で備えているものがありますか？（複数回答）



- ① 飲料水や食料
- ② ロープ
- ③ ラジオ、テレビなど携帯可能な情報源
- ④ 懐中電灯やろうそくなどの明かり
- ⑤ マッチやライターなど火を起こせるもの
- ⑥ 簡易な調理器具（カセットコンロなど）
- ⑦ 非常時に使う器具類の予備の電池や燃料など
- ⑧ 常備薬や救急セットなど
- ⑨ その他
- ⑩ 何も用意していない

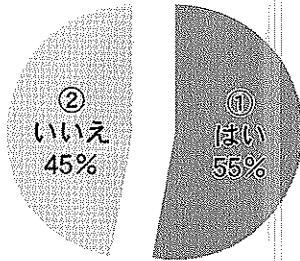


※「⑨その他」の回答

井戸、下着、お金、石油ストーブ、簡易トイレ、体温を保護するシート、保温シート、サンダル、水を入れる10リットル程度のビニルバッグ など

〈B. 震災後の意識の変化などに関して〉

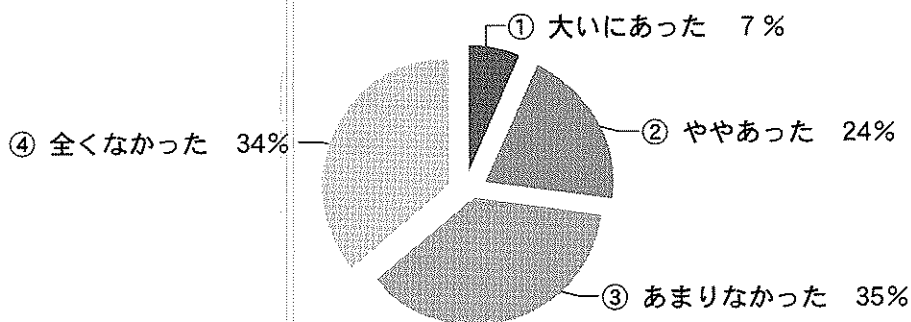
1. 震災後、家の方や友達と震災について何か話すことができましたか？



① はい→具体的にどのようなことを話しましたか？

・ 自然災害の恐ろしさについて ・ 原発について ・ 避難の仕方について ・ 今後同じような震災が起きたらどうするか ・ 政府の対応や報道のあり方について ・ 家族で普通に暮らせることを幸福に思うようにしようと話した ・ 日本人の復興に取り組む姿について ・ いつ何が起ころか分からないからいろいろな備えが必要 ・ 被災地の助けになりたい ・ 情報に常に注意しないといけない ・ 新聞などにある被災者の体験談について ・ 災害が起こった際の避難場所の確認 ・ 震災後かなり経っているのに被災地の状況があまり変わっていない ・ 連絡の取り合い方について ・ 震災の被害の大きさ ・ 今後の生活や今後の日本について ・ 震災の状況や震災が発生した原因について ・ ライフラインが止まったらどうするか ・ 避難に対する心構え ・ 募金や復興のために私たちにできることについて ・ 放射能の影響について ・ 被災者の方に何か物資を送ろうと話した ・ 原発事故発生時の避難の仕方など ・ 震災に合った親戚のことについて ・ 同じ原発を持っている県であり、さらに県庁所在地に原発があること ・ エネルギー問題について ・ 震災後、自粛することが本当によいのか、経済が良くなると復興にも繋がらない、ということなど ・ 資源の無駄遣いについて ・ 支援のしかたについて ・ 政府の対応の遅さについて ・ 原発に異変が起こったとき、どの時点で避難を判断すべきか ・ 不用品を処分し、必要なものをすぐ持ち出せるようにしようと思った ・ 関東、東北地方に住んでいる友人の安否について

2. 震災前と震災後で、今後の進路に対する考え方に何か変化はありましたか？

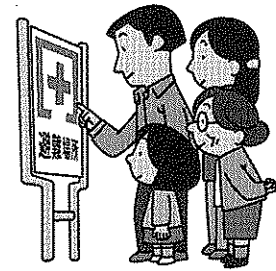
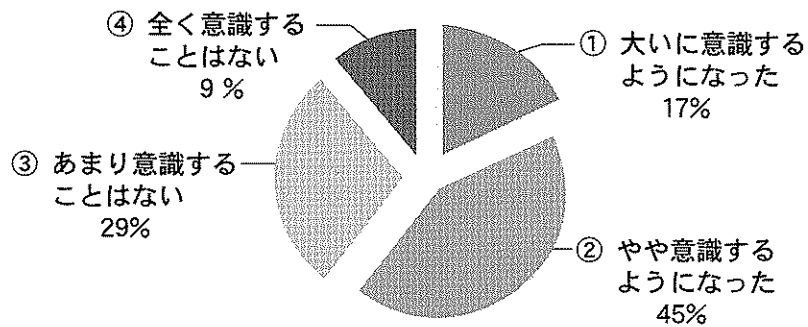


具体的にあれば記述してください。

・ 進学先について考えるようになった ・ 職業の選択について ・ 人の役に立つ仕事に就きたいと思うようになった。 ・ 人の助けになることをやりたいと思うようになった。 ・ ニュースを通じて、いろいろな職業があることが理解できた ・ どんな進路を選ぼうと、これから先何事にも一生懸命取り組もうと思った ・ 医療の重要性を再認識した。



3. 震災後、「家族の絆」について意識するようになりましたか？



4. 今回の震災について、校長先生がこれまでに話されたことや「よぶこえ」に書かれたことに対して、何か感じたことはありましたか？また、どのようなことを感じましたか？

・ 震災前と震災後で考え方や生き方が全く変わらないのは人間としてあまりにも鈍感だ、と言われたことに、そのとおりだと感じた。・ できるだけ復興の支援をしたい。・ 何が起こるか分からないので、毎日一生懸命生きようと思った。・ 自分は普通に暮らせて勉強ができて幸せだと思う。・ 人を思いやる心を学んだ。・ 被災地の大変さ、復興への気持ち、人の命の大切さ、などいろいろなことを感じた。・ 今の生活は贅沢な方だと感じた。・ 苦しんでいる人がたくさんいるから協力したいと思った。・ 3.11を機会に自分も変わらなければいけないと感じた。・ 災害時での自分の行動 ・ ボランティアにも参加したいと思った。・ 生徒玄関のポスターのことについて読み、自分が被災地の方にできることを少しずつやっていこうと思った。・ 今回の震災のことを忘れてはいけないと思った。・ 人事ではなく、災害に向き合う気持ちが変わった。・ 自分の生き方を考えるようになった。・ 当たり前と思っていたことが当たり前ではないことに気付いた。・ 今普通に暮らしていることに感謝すること。・ 自分に今できることは何なのかをより一層考えるようになった。・ 少しのことで弱音をはかないようにしよう。・ 全力で生きることの大切さ ・ 命の重さについて ・ 今生きている時間を大切にしようと思った。・ 被災者の方の生々しい姿を読み、今当たり前前に生きていてはいけない気がした。・ 人のために何かしようという気持ちが大切だと感じた。しかし実際に何も行動していないのも現実。・ 校長先生の「よぶこえ」の強いメッセージに身を削るような強さを感じるとともに、お体も心配します。・ 校長先生のお話はいつも力強く、いろいろなことが印象に残っているが、自分たちも、いつも被災者の人たちのことを思いながら生きていかなければならないと感じた。・ 今回のことは忘れてはならない悲しみ ・ 「よぶこえ」で遺体から泥をとる作業をする内容がとてつもなく衝撃的だった。・ 今自分たちができること（節電など）を、いつも意識しながら生活しなければ、と思った。・ 人は助け合わなければ生きていけないこと。・ 被災地のひどい状況を「よぶこえ」を通して知り、改めて命の重さを感じた。・ おっしゃる一つ一つのことに共感している。・ 自分たちが恵まれていて気がつかないことを大切にしなければいけないと思った。・ 被災地でなければ分からないことがあるということ。・ 「よぶこえ」の中にあらわされている様々な人の状況、気持ちなどが痛いほど伝わってきた。・ 卒業生が中心になって震災後いち早く募金活動を始めたことに感動した。・ 亡くなった方の苦しみ、無念さを思うと、今生きている自分はしっかりしなくては、と思った。・ 他人事ではなく、自分のこととして考えなければと感じた。・ いざという時のために動ける人間になろうと感じた。・ 離れた地で自分に何ができるか、現地に行かれている方に頭の下がる思いがする。・ 皆で助け合わなければいけないということ。・ 自分の意見を持つと思った。・ 自分はどういうふうに変わればよいのだろう。・ 家族の絆、命の尊さを深く感じた。人の心の痛みのわかる人間になりたいと思った。・ 復興を支えていくのはこれからの世代だという意識を感じさせられた。・ 今後の日本を担う一員としてしっかりしなければと思った。・ さまざまな視点から震災に関する考えを聞き、震災をより身近に感じるようになった。・ 被災された方の様子は胸に詰まされる思いがした。・ 被災者の皆さんのため今自分にできることを精一杯やろうと思った。

平成23年度前期部活動

平成23年度結果一覧（8月31日まで）

平成23年度(第49回)県高校総体結果	
男女総合	Aグループ 4位
女子総合	Aグループ 3位

陸上競技

《出雲陸上》

男子一五〇〇M	1位 山崎慶佑
男子五〇〇〇M	8位 山崎慶佑
女子八〇〇M	8位 原静花
女子やり投	2位 小草優希

《全山陸上》

男子五〇〇〇M	7位 山崎慶佑
女子八〇〇M	7位 小脇紀子
女子三〇〇〇M	8位 原静花

《県選手権》

男子一五〇〇M	6位 山崎慶佑
女子五〇〇〇M	3位 高井名菜
女子やり投	3位 小草優希

《県総体》

男子一五〇〇M	2位 山崎慶佑
男子五〇〇〇M	3位 山崎慶佑
女子三〇〇〇M	7位 高井名菜
女子やり投	1位 小草優希

剣道

《中国県予選》

男子団体	一回戦 シード
	二回戦 対 飯南 5-0 勝ち
	三回戦 対 横田 3-2 勝ち
	準決勝 対 松江工 2-0 勝ち
	決勝 対 大社 0-2 負け
女子団体	一回戦 対 大田 3-1 勝ち
	二回戦 対 横田 3-0 勝ち
	準決勝 対 出雲 2-1 勝ち
	決勝 対 大社 1-1 本数勝ち

*男子2位 女子優勝

男子個人 安達 ベスト⑩、福田ベスト32

女子個人 山根3位 境ベスト8

*男子団体・女子団体、個人ベスト32以上が中国大会(山口)出場

《県総体》

男子団体	一回戦 シード
	二回戦 対 大東 4-0 勝ち
	三回戦 対 出雲商 3-1 勝ち
	準決勝 対 横田 2-2 本数負け

女子団体 一回戦 シード

二回戦 対 大東 2-2 本数勝ち

三回戦 対 松江農 5-0 勝ち

準決勝 対 出雲商 1-3 負け

*男子3位 女子3位

弓道

男子個人 稲澤・金森ベスト⑩
女子個人 山根3位 境ベスト⑩

《中国大会県予選》

男子個人	1位 橋本育幸 12射12中
	3位 大江滝斗 12射11中
	中村 絢 12射10中

*中国大会出場権獲得

女子個人 石原結衣 12射8中

*中国大会出場権獲得

男子団体(中村・家中・橋本・須山・大江・松浦) 予選 1位 60射44中 決勝進出

決勝トーナメント準決勝(20射) 対 益田高校 13-14 準決勝敗退

3位 *中国大会出場権獲得

女子団体(高井・山下・早弓・青山・森山・久保田) 予選 60射16中 予選敗退

男子団体(高井・山下・早弓・青山・森山・久保田) 予選 60射16中 予選敗退

《県総体》

男子個人 2回戦進出 金山拓哉・橋本育幸

女子個人 2回戦進出 高井美緒

男子団体(中村・家中・大江・須山・橋本・松浦・古川) 予選 40射12中 予選敗退

女子団体(山下・高井・森山・青山・石橋・石原) 予選 40射13中 予選敗退

《中国大会》

男子個人 7位 橋本育幸 8射7中

出場 中村絢・大江滝斗

女子個人 出場 石原結衣
 男子団体(中村・家中・大江・須山・橋本・古川)
 予選 20射11中 16位

決勝トーナメント1回戦(20射)
 決勝トーナメント進出
 対 八頭 9-9

射詰(5射) 2-3 1回戦敗退

サツカー

《県総体》

1回戦 0-1 出雲工業

《松江地区ユースリーグ》

松江東 1-0 松江南
 松江東 2-2 松江工業
 松江東 1-2 情報科学
 松江東 0-0 松江農林
 松江東 1-1 松江工業

アーチェリー

《県春季大会》

少年男子シングル 3位 角 森 雄 樹
 5位 吉 野 誉 之

《県総体》

女子団体 1位
 男子団体 2位
 女子個人 1位 石原 遥 菜
 2位 柏井 葉 月

女子バレーボール

《中国県予選》

予選リーグ戦 2-0 高専

2-0 大田

2-0 出雲西

2ブロック リーグ戦

2-1 石見智翠館

0-2 松江農林

2-0 三刀屋

順位決定リーグ戦

1-2 安来

1-2 松江南

2-1 大社

4位 中国大会出場

《中国大会》(広島市) 0-2 高梁日新(岡山)

《県総体》

2回戦 2-1 松江商

3回戦 2-0 大東

準々決勝 2-0 石見智翠館

準決勝 1-2 安来 *3位

女子バドミントン

《中国県予選》

団体 一回戦 3対0 矢上

二回戦 3対1 出雲商業

三回戦 0対3 松徳学院

三位決定戦 3対2 松江商業

※中国大会(6/24~26 広島市)出場

団体 一回戦 0対3 安芸府中高校(広島)

《中国県予選》

個人 ダブルス 野津 成美・原 智美 (ベスト16)

シングルス 野津 成美(ベスト32) 原 智美(ベスト32)

《県総体》

団体 一回戦 3対1 松江農林

二回戦 3対1 松江南

三回戦 0対3 大東 ※三位

個人 ダブルス 野津 成美・原 智美 (ベスト8)

シングルス 野津 成美(ベスト32) 原 智美(ベスト32)

内田 愛理

《島根県高等学校テニス個人選手権》

男子 シングルス ベスト32 壺倉 優太郎

男子 ダブルス ベスト16 壺倉・竹内

女子 シングルス ベスト16 生垣 沙耶香

ベスト32 榎野 裕奈

《島根県高等学校総合体育大会》

男子 団体戦 ベスト8

女子 団体戦 ベスト8

個人戦 男子 シングルス ベスト32 壺倉 優太郎

ダブルス ベスト16 壺倉・竹内

女子 シングルス ベスト16 生垣 沙耶香

ベスト32 佐々木 成美 木山 美奈実 榎野 裕奈

テニス

《島根県高等学校テニス個人選手権 松江地区予選》

男子 シングルス 15位 竹内 尚弘

22位 高梨 友博

男子 ダブルス 7位 安井・石川

8位 壺倉・竹内

女子 シングルス 4位 生垣 沙耶香

8位 安食 いづみ

ベスト16 榎野 裕奈

ベスト32 佐々木 成美

木山 美奈実

曾田 葵

《島根県高等学校テニス新人大会(個人の部) 松江地区予選》

男子 シングルス 4位 壺倉 優太郎

5位 竹内 尚弘

予選通過 石川・田中

ダブルス 3位 壺倉・竹内

予選通過 石川・田中

女子 シングルス 2位 榎野 裕奈

曾田 葵

堀江 涼子

ダブルス 6位 安食いづみ・曾田 葵

9位 生垣沙耶香・榎野 裕奈

ホーク

《松江レガッタ》

荒天のため中止

《県総体》

男子クオドルプル(二村・重原・渡部・門脇・安部) 1位

男子ダブルスカル(後藤・赤山) 2位

男子ダブルスカル(石倉・江川) 5位

男子シングルスカル(林) 1位

男子シングルスカル(原田) 5位

女子ダブルスカル(松本・三角) 2位

女子シングルスカル(久保田) 2位

《中国高等学校ホーク選手権》

男子クオドルプル(二村・重原・渡部・門脇・安部) 2位

男子ダブルスカル(後藤・赤山) 準決勝進出

男子シングルスカル(林) 準決勝進出

男子シングルスカル(原田) 予選敗退

女子ダブルスカル(松本・三角) 予選敗退

女子シングルスカル(久保田) 準決勝進出

《全国高等学校総合体育大会ホーク競技》

男子クオドルプル(二村・重原・渡部・門脇・安部)
 準々決勝進出
 男子シングルスカル(林)
 準々決勝進出

ソフトテニス

《山陰選手権》

男子個人

持田尚宏・山本亮平組 一回戦敗退
 鷲見和朗・寺田拓人組 一回戦敗退
 大島拓実・前川勇組 一回戦敗退
 村尾健太郎・内田勇貴組 ベスト32
 女子個人
 金森真子・池田歩美組 一回戦敗退
 原有彩・信木友美組 一回戦敗退
 松本千咲・津田明美組 一回戦敗退

《県総体東部地区予選》

男子個人

安部遼人・春名雄太組 二回戦敗退
 持田尚宏・山本亮平組 三回戦敗退
 鷲見和朗・寺田拓人組 三回戦敗退
 大島拓実・前川勇組 ベスト32
 村尾健太郎・内田勇貴組 ベスト32
 女子個人

野津彩菜・若杉麻未組 二回戦敗退
 金森真子・池田歩美組 二回戦敗退
 信木友美・原有彩組 ベスト32
 松本千咲・津田明美 ベスト32
 男子団体 一回戦 3-0 出雲工業

《県総体》

男子個人

鷲見和朗・寺田拓人組 二回戦敗退
 坂下有哉・太田裕也組 二回戦敗退
 持田尚宏・山本亮平組 三回戦敗退
 村尾健太郎・内田勇貴組 三回戦敗退
 大島拓実・前川勇組 ベスト32
 女子個人
 金森真子・池田歩美組 二回戦敗退
 野津彩菜・若杉麻未組 三回戦敗退
 信木友美・原有彩組 ベスト32
 松本千咲・津田明美組 ベスト16

男子団体

一回戦 3-0 矢上
 二回戦 2-1 安来
 三回戦 0-2 松江南 (ベスト8)

女子団体

二回戦 2-1 隠岐
 三回戦 2-1 大田
 準々決勝 2-1 松江南
 準決勝 2-1 大社
 決勝 0-2 松江西(第2位)

《中国大会》

女子個人

松本千咲・津田明美組 二回戦敗退
 女子団体 一回戦 2-1 広島新庄

二回戦 0-3 岩国商業

卓球

《中国県予選》

男子団体

一回戦 3対2 松江北
 二回戦 1対3 松江商業
 男子ダブルス 5組参加 三回戦までで敗退
 男子シングルス 10名参加 三回戦までで敗退
 女子団体 一回戦 3対1 三刀屋
 二回戦 0対3 松江農林
 女子ダブルス 二組参加 三回戦までで敗退
 女子シングルス 四名参加 吉岡 奈美 ベスト32

《県高校総体》

男子団体

一回戦 3対1 松江西
 二回戦 0対3 松徳学院
 男子ダブルス 5組参加
 安部 展洋・山口 峻介 ベスト32
 男子シングルス 10名参加 田村 優一 ベスト64
 山口 峻介 ベスト64

女子団体

一回戦 3対0 出雲農林
 二回戦 0対3 明誠
 女子ダブルス 2組参加 三回戦までで敗退
 女子シングルス 4名参加 三回戦までで敗退

水泳

《県総体》

男子一〇〇M背泳ぎ 2位 横川 淳
男子二〇〇M背泳ぎ 2位 横川 淳

《中国大会》

男子一〇〇M背泳ぎ 6位 横川 淳
男子二〇〇M背泳ぎ 6位 横川 淳

《県総体》

男子 1位

一回戦 102-69 倉敷青陵(岡山)

準々決勝 62-68 柳井(山口)

一回戦 84-46 鳥取西(鳥取)

準々決勝 45-74 呉商業(広島)

男子 1位 81-61 松江商業

一回戦 108-43 浜田

男子 2位

準々決勝 69-52 益田

準決勝 71-48 三刀屋

決勝 90-64 松江西

*ベスト5賞 金村 謙 金村大輔

二回戦 134-5 出雲西

準々決勝 65-37 松徳学院

準決勝 59-55 松江商業

決勝 49-53 松江北

*ベスト5賞 加茂日砂美

男子

一回戦 松江東 17-21 松江南

女子リーグ

一回戦 松江東 11-22 松江南

二回戦 松江東 10-22 松江女子

三回戦 松江東 10-24 江津

《島根県高等学校総合体育大会ハンドボール競技会》

男子

一回戦 松江東 16-22 松江南

女子リーグ

一回戦 松江東 3-31 松江南

二回戦 松江東 11-29 松江女子

三回戦 松江東 12-29 江津

*総合第4位

野球部

《島根県高等学校春季野球大会東部地区予選》

松江東 4-3 隠岐

《島根県高等学校春季野球大会県大会》

松江東 6-9 出雲西

《第93回全国高等学校野球選手権島根大会》

松江東 0-1 益田東

合唱部

第13回定期演奏会開催

7月24日 プラパホール

第78回NHK全国学校音楽コンクール島根県大会

銅賞

第50回島根県合唱フェスティバルコンクール

高等学校Aの部 銀賞

バスケットボール

《中国大会県予選》

男子 1位

一次予選 140-54 大社

二次予選 110-64 出雲工業

85-63 出雲北陵

118-49 出雲

89-57 松江工業

91-78 松江西

*ベスト5賞 小川健太 中村 圭

女子 2位

一次予選 124-35 大田

82-52 明誠

二次予選 66-80 松江北

66-60 松江商業

92-61 出雲北陵

94-70 出雲

*ベスト5賞 山坂つばさ

《中国選手権大会》

男子 ベスト8

ハンドボール

《中国高等学校ハンドボール選手権大会島根県予選》

男子

一回戦 松江東 17-21 松江南

女子リーグ

一回戦 松江東 11-22 松江南

二回戦 松江東 10-22 松江女子

三回戦 松江東 10-24 江津

吹奏楽部

カラコロ春祭り出演

4月24日(日) カラコロ広場等

第18回定期演奏会 開催

(招待演奏 湖東中学校吹奏楽部)

6月4日(土) プラバホール

島根県東部地区吹奏楽祭出演

6月12日(日) 島根県民会館

第20回松江八束バンドフェスティバル 出演

7月10日(日) 島根県民会館

しまね人権フェスティバル洲オープニングコンサート出演

7月24日(日) くにびきメッセ大展示場

第52回全日本吹奏楽コンクール島根県大会

金賞受賞(2年連続の中国大会出場権獲得)

8月7日(日) 益田市・グラントワ

課題曲:マーチ「ライヴリーアヴェニュー」
(堀田庸元)

自由曲:バレエ音楽「中国の不思議な役人」
(バルトーク)

川津夏祭り出演

8月20日(土) 川津公民館周辺

第52回全日本吹奏楽コンクール中国大会

銀賞受賞

8月27日(土) 広島市文化交流会館

東高東雲祭文化の部演奏

9月1日(木) 東高体育館

第20回出雲ドーム2000人の吹奏楽参加

9月10日(土) 出雲ドーム

文化創造部

第47回県高等学校放送コンテスト

テレビドキュメント部門 優秀賞

ラジオドキュメント部門 優秀賞

朗読部門 1位 丹羽 のぞ美

第58回NHK全国高等学校放送コンテスト

ラジオドキュメント部門 準々決勝進出

テレビドキュメント部門 準々決勝進出

朗読部門 丹羽のぞ美 準々決勝進出

書道部

高文連書道コンクール結果(6月4日実施)

4名参加

特選 大西 友香

秀作 永田 葵 渡部 菜央

佳作 長廻 真弘

弦楽部

第6回定期演奏会 開催

4月29日(金・祝) プラバホール

しまねシンフォネット高校オーケストラ

第3回スプリングコンサート出演

5月28日(土) ビッグハート出雲 白のホール

美術部

平成23年度

・高文連松江地区高校美術講習会

6月2~4日 鳥取県 大山寺周辺

17名参加

・第35回全国高等学校総合文化祭 福島大会

美術・工芸部門 出品

交流会参加 3年 田部 温子

ESS部

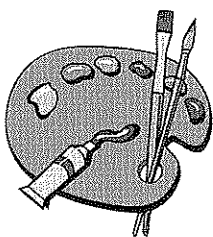
東雲祭にて怪談「耳なし芳一」上演

自然科学部

平成二十三年度県高文連自然科学部門実験・観察研修会参加

SSHコンソーシアム鹿児島「ダイコン多様性研究」

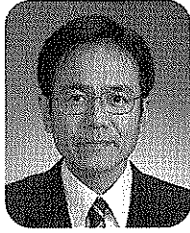
8月 第1回研究会(鹿児島大学)研究計画発表



新任教職員紹介

次の三項目に答える形で紹介します。

- ① 高校時代にもう少し頑張っていたらよかったと思うことは？
- ② 高校時代に妙に夢中になっていたことは？
- ③ 「座右の銘」とその言葉を選んだ理由



吉田 彰二
(教頭)

① 部活動と女子との会話。帰宅部であったこと、三年間過ごしたクラスが女子ひとりだったということによります。

② 小説をよむこと。作家を決めて修行のように読んでました。それと、数学の問題に挑戦すること。月一回は少し難しい問題に、制限時間三日間の決まりをつくり取り組んでいました。

③ 「継続は力なり」 月並みですが、高校時代担任の先生から言われた言葉です。この年齢になって益々、実感が湧いてきました。

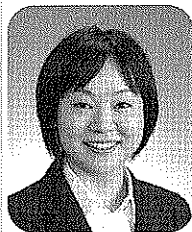


石橋 直子
担当学級 (12 R 担任)
担当教科 (国語)

① クラスメイトの顔と名前を覚えること、自分から話しかけること。人見知りだったので、同窓会で名前を思い出すのに一苦労します。

② 特定の作家さん、漫画家さんの作品を夢中で読んでいました。暗記するまで読みこんでは、周りに熱く語っていました。

③ 「出来る、必ず出来る、出来るまでやる」。ついてなくても、不器用でも、出来るまでやれば、出来ないことなどないのです。



佐藤 昌子
担当学級 (1年 学年付)
担当教科 (国語)

① 英語と歴史の勉強です。

② 休みの日の夕方、犬を連れて一時間近く歩き続けることがよくありました。てくてくてくてく…心と体のリフレッシュ。

③ 「人の足を停めるのは絶望ではなく諦観／人の足を進めるのは希望ではなく意志」 あきらめるな！意志を強く持て！と言いつけられないといけないくらい、弱いから。

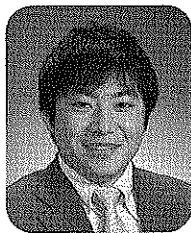


篠原 節子
担当学級 (2年 学年付)
担当教科 (地理)

① もっと頑張つて勉強しとけばよかったのにと、今になつてもつくづく思います。

② 一体何していたのかも思い出せません。

③ 「我が道をゆく」 自分の人生を生きているのは自分だけ、自分に対して責任を取れるのも自分だけ。人生最後まで自分の道を踏みしめて歩んでいきたいと思っています。



石川 智
担当学級 (14 R 副担任)
担当教科 (数学)

① 集中してものごとに取り組むように努力しておけばよかったです。(いざというときに頑張れる自分になりました)

② 筋トレをしていました。昼休みはベンチプレス、放課後はコーヒーの缶を片手で潰していました。

③ 「失敗は成功のもと」 誰でも失敗はします。その失敗から何を学び、次に活かすのが大事です。弱さを知っているからこそ、強くなれる！



倉橋 雅宗

担当教科(化学)
担当学級(16R 副担任)

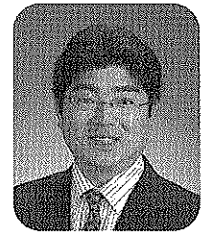
- ① 社会科(政治・経済)の勉強をもつとしておけばよかったです。
- ② 作曲。あらゆるジャンルの音楽を聴いていました。
- ③ 「外柔内剛」そういう人でありたい。



山崎 慎司

担当教科(化学)
担当学級(32R 担任)

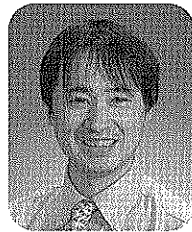
- ① 肉體改造。野球部員としては情けないくらい細かい体でした。
- ② 部活帰りの仲間たちとの語り。野球・恋・その他について、すべてが楽しい思い出です。
- ③ 「楽しく、厳しく」実践しようと思つていますが、なかなか難しいものです。



松村 雅之

担当教科(生物)
担当学級(13R 担任)

- ① 数学の勉強。これを何とかしておけば、浪人せずに大学生になれたんじゃないかと妄想しています。
- ② 生物部の部活動。蝶の標本(学術的に貴重なものあり)や、水槽の熱帯魚やアフリカツメガエルたちと放課後を過ごしました。
- ③ 「まずやつてみる。またやつてみる。そして、ずっとやり続ける。」自分の中の引き出しが増えます。



緒方 孝

担当教科(英語)
担当学級(1年 学年付)

- ① 部活(当時帰宅部に所属し、毎日3時半に帰宅してはアニメやおニヤン子を見ていたが今思えば…)と一、二年次の勉強
- ② アイドル(特に「ゆうゆ」と「のりピー」とTVゲーム
- ③ 「権謀術数」(達成したいことは、モラル違反以外なら正攻法以外を使つても、なりふりかまわずとりにいくと決めている。)



大國 晴吾

担当教科(英語)
担当学級(15R 副担任)

- ① いろいろなことに挑戦すること。本や新聞を読むこと。知らない人にも話しかけること。
- ② 世界史。歴史ものの洋画をひたすら観ていました。
- ③ 「明鏡止水」素直に曇りなく、あるがままに生きられればと思つています。なかなかうまくはいきませんが…



竹縄 純子

担当教科(家庭)
担当学級(11R 副担任)

- ① 体を鍛えること。運動が苦手であまり体を動かすことがなかったのですが、社会人となり、仕事でも家庭生活でも結局は体力勝負だと痛感。体の元気は心の元気にもつながります。
- ② 洋楽と深夜ラジオ。あの頃の音楽をたまに聞くと、今でも元気が出ます。
- ③ 「目の前のことに最善をつくす」。日々いろいろなことがあります、しんどくなった時はこの言葉を自分に言い聞かせています。



柳原美紀子
養護

- ① 勉強。生物以外はほとんど放棄してしまいました。苦手な教科をもっと頑張っていればよかったですと思います。
- ② 信号が青になつている方向にだけひたすら進む。自転車で行かない道を冒険するのが好きでした。
- ③ 「不屈の精神」困難に直面しても、諦めず立ち向かつていきたいと思っています。



柳浦麻衣
事務

- ① 勉強・・・振り返るたびに後悔します。
- ② 部活もせず遊んでばかりいました。
- ③ 一日一笑・・・一日一回の笑顔が心もカラダも元気にしてくれます。



平成二十三年度PTA会務報告

(平成二十三年四月一日～九月三十日)

1、第1回常任理事会

5月10日(火)

【議事】

- (1) 平成22年度会務報告・委員会活動報告
- (2) 平成22年度PTA会計収支決算報告
- (3) 平成23年度PTA事業計画提案
- (4) 生徒会費・部活動振興費改定提案
- (5) 平成23年度PTA会計予算案審議
- (6) 平成23年度新役員候補者提案
- (7) 平成22年度生徒活動後援会決算報告
- (8) 平成23年度生徒活動後援会予算提案

3、PTA総会

5月14日(土)

【議事】

- (1) 学校近況報告
- (2) 平成22年度PTA会務報告・委員会活動報告
- (3) 平成22年度PTA会計収支決算・監査報告
- (4) 平成23年度PTA役員提案
- (5) 平成23年度PTA事業計画提案
- (6) 生徒会費・部活動振興費改定提案
- (7) 平成23年度PTA会計予算提案

2、第1回役員会

5月14日(土)

【議事】

- (1) 学校近況報告
- (2) 平成22年度PTA会務報告・委員会活動報告
- (3) 平成22年度PTA会計収支決算・監査報告
- (4) 平成23年度新役員候補者提案
- (5) 平成23年度PTA事業計画提案
- (6) 生徒会費・部活動振興費改定案審議
- (7) 平成23年度PTA会計予算提案
- (8) 平成22年度生徒活動後援会会計収支決算・監査報告

4、生徒活動後援会総会

5月14日(土)

【議事】

- (1) 平成22年度生徒活動後援会会計収支決算・監査報告
- (2) 平成23年度生徒活動後援会役員提案
- (3) 平成23年度生徒活動後援会会計予算提案

5、学年PTA

5月14日(土)

- (8) 平成22年度生徒活動後援会会計収支決算・監査報告

6、※平成23年度県高P連・安全互助会総会

6月11日(土)

【場 所】

出雲・ラピタウエディングパレス

【出席者】

二村会長、中村校長

7、第1回保護者面談(全学年)

6月13日(火)～16日(金)

8、第1回各委員会(研修、広報、生活、進路)

6月17日(金)

【内 容】

事業計画

9、※第53回中国・四国高等学校PTA連合大会

7月15日(金)

【場 所】

広島市文化交流会館

(旧広島厚生年金会館)

【テーマ】

「親と子の信頼でつなぐ命の絆」

～心の声が聞こえますか～

【内 容】

研究協議

「進路指導とPTA」、「生徒指導PTA」、

「高校生と食とPTA」

高校生による発表(和太鼓、空手、神楽)

基調講演

臨床心理士・スクールカウンセラー

樋口啓子氏

【出席者】

原田副会長、吉田教頭

10、地区PTA(各支部別に開催)

7月21日(木)～29日(金)

11、※第61回全国高等学校PTA連合会大会

8月20日(金)～21日(土)

【場 所】

北海道立総合体育センター「北海きたえー

る」他(札幌市)

【テーマ】

メインテーマ:いのち 輝け!

サブテーマ:～人・夢・愛 ひたむきに

頑張る君たちを応援したい～

【内 容】

高校生アトラクション

(札幌白石高校吹奏楽)

基調講演

精神科医・立教大学教授 香山リカ氏

アトラクション

札幌創成高校「和太鼓」、稚内市内高校

「南中ソーラン」、YOSAKOIソーラ

ン

高校生アトラクション

釧路江南高校「和太鼓」

江差高校「江差追分」

北広島高校「書道パフォーマンス」

分科会

記念講演 前旭山動物園園長 小菅正夫氏

12、ガーデニング講習会(研修委員会主催)

8月27日(土)

【場 所】

はなワールド

【内 容】

インドアガーデン

【参加者】

35名参加

13、東雲祭

【文化の部】9月1日(木)～2日(金)

ガーデニング作品展示

【体育の部】9月5日(月)

14、PTA研修旅行(研修委員会主催)

10月1日(土)

【研修地】

雲南市他(予定)

【テーマ】

「しまねの魅力再発見」

※参加希望者少数のため、開催見送り



編集後記

親という字は「木の上に
立って見る」と書く…と

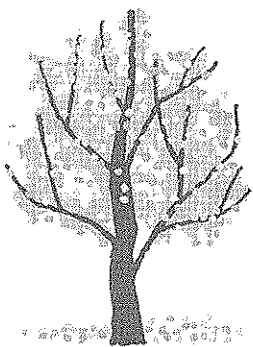
何かの本で読みました。無関心は論外だが干渉のし過ぎや過保護もいけない…、要は我が子を如何に見守るかということでしょうか。「今頃の若いもんは…」とよく言いますが、アンケートに寄せられたコメントを見れば、東高の若いもんは結構しっかり考えています。子どもたちのパワーを信じて、夢を本気で受け止めてしっかり見守る…：そんな想いを新たにしたい今日この頃です。

堀江 雄次

息子が春に入学して、P
TA会報「嵩山」の発行に
携わらせて戴くことになりました

毎日忙しく、課題や部活動に取り組む姿に、日々子供の成長を感じております。今回の特集は「部活動と高校生活」ということで、皆様から原稿をいただきました。夢や目標を持って努力していく姿に、親の方こそ勇氣や元気をもらっている気がします。東高での高校生活が、「たくさんの方の支えで活かされている」、そんな思いが伝わるような広報誌を発行していきたいと思えます。

星野久美子



編集委員
三代 孝江
堀江 雄次
星野 久美子
栗原 克己
青木 伸之
松嶋 加奈江
周藤 純子
竹縄 純子

今年是新燃岳の噴火、東日本で未曾有の大震災、台風12号による大雨被害と日本中各地で災害が起き、数多い方が被災されています。いつ発生してもおかしくない自然災害を相手にした場合は、全く予想ができずアタフタするばかりで何の対策もできないまま災害に直面してしまうことと思います。今回のアンケートでも、遠くで起きた出来事で終わってしまった感じもありましたので、是非もう一度、いざという時に自分や家族を守るよう防災について話し合う場を設けていただくとアンケートをした甲斐があります。

栗原 克己



〈表紙の絵〉 竹田 茂 (本校教員)

〈題 字〉

PTA会報 森脇 哲朗 (旧本校教員)
嵩山 上田久美子 (十三期生保護者)